

生駒山麓公園再整備による 地域活性化のための 基盤整備検討懇話会 (第3回)

令和7年(2025)11月18日(火)

目次

- 01 第2回懇話会の振り返り
- 02 現状と課題等
- 03 今後の再整備と管理運営の方針(基本構想原案)
- 04 今後のスケジュール等

01

第2回懇話会の振り返り

おもな意見・指摘事項と対応状況

■ニーズ調査に関するもの

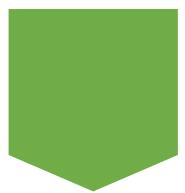
指摘事項	対応状況
✓ ハード面とソフト面のニーズが矛盾していないか。利用者アンケートだけではニーズがわからず、今後の方針性にはつなげられない	<ul style="list-style-type: none">利用者アンケート結果については、屋外で遊ぶ目的で来られた方も屋内で遊べるところを求めていることがわかったと考えている市民・市外アンケートでもニーズを把握する選択肢をハードとソフトが対となるように設定し、それぞれのニーズと相互の関係が把握できるよう調査を進めている。上位関連計画における市の政策方針、既存のアンケート及び市民・市外・事業者・利用者アンケート、指定管理者が実施するアンケート等も含め、市民ニーズを把握し方向性を整理する（第3回懇話会後も引き続いて検討する）
✓ 利用者アンケートでは有料施設について現状維持の意向が強かったが、利用者アンケートだけでは現状に満足しているのかわからない。指定管理者が実施するアンケートも合わせることで全体像が見えるのではないか	<ul style="list-style-type: none">指定管理者がすでに実施している利用者アンケートの結果をとりまとめた（スライド番号14、15。公園全体の満足度、サービスの満足度等）上位関連計画における市の政策方針、既存のアンケート及び市民・市外・事業者・利用者アンケート、指定管理者が実施するアンケート等も含め、市民ニーズを把握し方向性を整理する（第3回懇話会後も引き続いて検討する）今後、指定管理者が実施するアンケートの内容について調整する

おもな意見・指摘事項と対応状況

指摘事項	対応状況
<ul style="list-style-type: none">✓ ニーズ調査だけで方向性を固めると課題解決型になるため、今後の未来像を掲げてからアンケートを行う方が一定の効果は得られるのではないか。✓ 指定管理者等とも山麓公園の未来像について協議を行ってはどうか。	<ul style="list-style-type: none">• 市民・市外アンケートの「今後、山麓公園の再整備に向け、山麓公園がどのようになれば良いか」で確認する• 本調査内の事業者ヒアリングを継続する

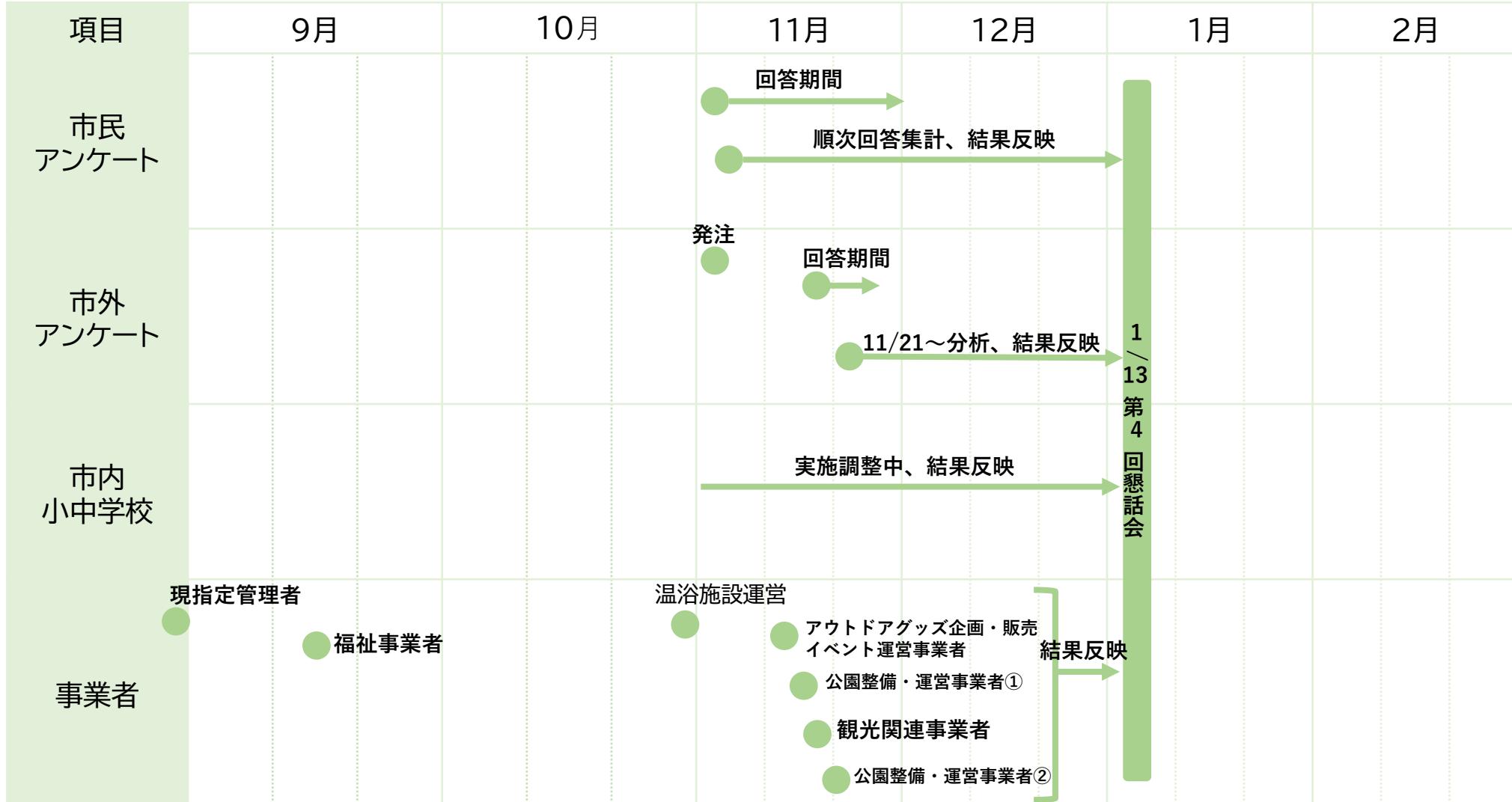
■今後の検討の方向性に関するもの

指摘事項	対応状況
<ul style="list-style-type: none">✓ 福祉事業者との連携については良い取り組みで残してほしいものだが、現状では動線が問題と感じる。せっかくの公共施設での取組みなのでゾーン・動線をわけたうえで触れ合う機会があればいいと思う。✓ 多機能型とすると、なんもありというふうにみえるので、コンセプトとしてどこに重点を置くべきかの検討が必要。✓ 多機能型であればゾーニングが重要で、それぞれでターゲットやコンセプトをきめるべき。✓ 現状分析のみで方向性をきめると機能の取捨選択が難しくなる。課題を整理したうえで、方向性を検討していったらよい。✓ 前提としてどのような公園をめざすかを整理したうえで、公民の対象範囲を定めるべきである。✓ 公民連携手法にも多様なものがあり、それを念頭に置いて調査を行うべきである。	<ul style="list-style-type: none">• 福祉事業者との意見交換等を通じて、今後の計画段階にかけて検討する• 本日資料において「今後の再整備と管理運営の方針案（基本構想骨子案）」「第3回懇話会 参考資料」として整理• 事業者との意見交換等を通じて、今後の計画段階にかけて検討する



対応状況

市民、利用者、事業者等の意向把握



市民、利用者、事業者等の意向把握

市民アンケート

- ・ 世代別のニーズ把握
- ・ ハード面、ソフト面のニーズ確認（第4回懇話会で報告）

市外アンケート

- ・ 公園の認知度確認
- ・ 広域的なニーズの把握（第4回懇話会で報告）

小中学校アンケート

- ・ 小中学校におけるニーズ把握（第4回懇話会で報告）

事業者ヒアリング

- ・ 6社実施済み、今後1社予定（第4回懇話会で報告）

指定管理者実施の 利用者満足度調査

- ・ スライド番号14、15

緑の基本計画 市民アンケート

- ・ スライド番号16～19

商工観光ビジョン 市民アンケート

- ・ スライド番号20

市民アンケート調査 実施状況(途中報告)

目的

- ・市民の利用実態やニーズの把握
- ・第2回までの懇話会で見えてきた今後の山麓公園の再整備の方向性について市民の意見を確認

対象者

16歳以上の生駒市在住の市民3,000人（住基台帳から無作為抽出）

実施方法

郵送配布・郵送回収及びオンライン回答

回収数

郵送 137票 オンライン306票 (11/14現在)

スケジュール



※11/30×切のため、1月の懇話会資料には結果を反映予定。

※速報値は参考資料に記載

市外アンケート調査(途中報告)

目的

- ・広域的な利用実態やニーズの把握
- ・第2回までの懇話会で見えてきた今後の山麓公園の再整備の方向性について市外の方の意見を確認

対象者

山麓公園から約30キロ圏内の市町の居住者（16歳以上）

実施方法

調査会社に依頼するオンラインモニターアンケート

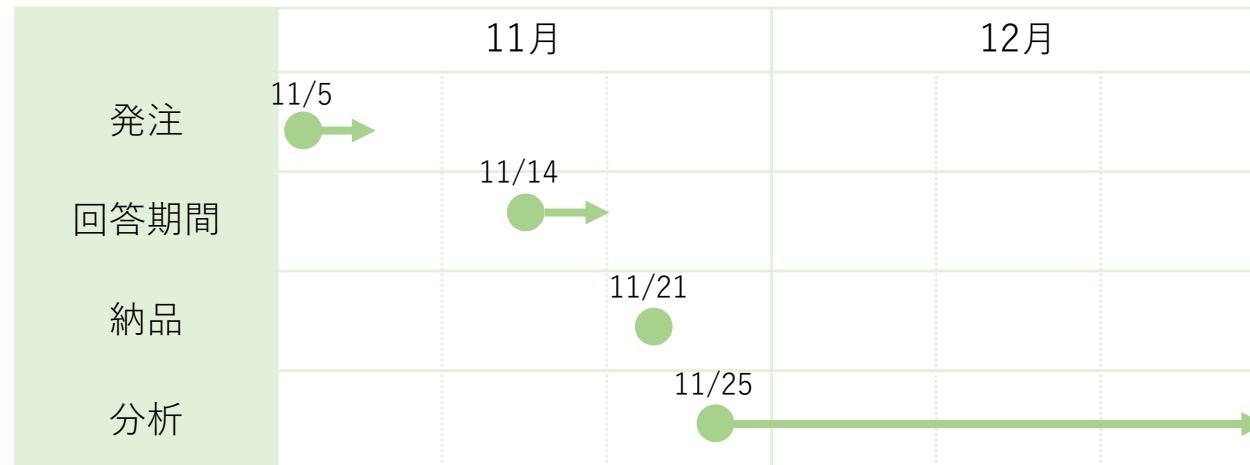
実施時期

11月12日から11月18日（予定）

回収サンプル数

大阪府エリア 350／奈良県エリア 350／京都府エリア 300（予定）

スケジュール



※1月の懇話会資料には結果を反映予定。

市内小中学校(団体利用者)調査(途中報告)

目的

- ・公園を利用しているまたは利用可能性がある団体の利用実態、ニーズを把握
- ・第2回までの懇話会で見えてきた今後の山麓公園の再整備の方向性について団体の意見を確認

対象者

市内小中学校（適切な代表者に回答をいただく）

実施方法

オンラインアンケート

実施時期

11～12月（現在調整中）

※1月の懇話会資料には結果を反映。

事業者等ヒアリングの実施について

	業種
現管理者	指定管理者
	社会福祉法人（レストラン事業者）
事業者	温浴施設運営（1社）
	アウトドアグッズ企画・販売、イベント運営（1社）
事業者	観光関連（1社）
	公園整備・運営（2社）

※ヒアリング実施済および実施予定のもののみ記載。必要に応じて、さらに実施します。

事業者等ヒアリングの途中報告

事業者のおもな意見（まとめ）

- 施設全体の老朽化対策が必要不可欠（指定管理者）
- 近年のニーズとしては水遊び場やロッジの人気が高い（指定管理者）
- 障がい者が働く場所として、広々とした都市公園は良い環境である（福祉事業者）
- 各施設が連動した運営が必要で、温浴施設のみ専門業者に依頼するといった形は望ましくない（温浴施設事業者）
- 自ら公園全体を運営することはできないが、運営を行う事業者との連携・協力や、認知度向上のためのイベント・プログラム提供等は可能である（アウトドアグッズ企画・販売、イベント運営事業者）
- 宿泊について、一般向けのニーズがあり、客室リノベーションなどを行えば利用客を増やせると思う。また、学生スポーツ団体などの利用ニーズもあるので、そこも伸ばせる可能性はある。（現・指定管理者）

前指定管理者による満足度調査について

■令和5年度、令和6年度6月末（前指定管理期間）の調査概要

- ✓ アンケート票設置による調査
- ✓ 全利用者を対象に「利用してよかったです」、「悪かったです」等の確認
- ✓ 宿泊者向けには「予約の受付方法」や「清掃状況」、「サービス全体」の満足度を確認している

サービス全体の満足度（宿泊者向け）

	R5 (n=121)	R6 (n=20)
とてもよい	39	9
よい	32	5
ふつう	12	3
あまりよくない	2	0
よくない	0	0
未記入	8	3

現指定管理者による満足度調査について

■令和7年度（現指定管理期間）の調査概要

- ✓ QRコード設置によるオンラインアンケート（31件）
- ✓ 全利用者を対象に「利用した施設」、「公園を家族や友人・知人にどの程度おすすめしようと思うか」、「公園全体の満足度」等の確認
- ✓ 公園全体の満足度については項目があるが、各施設ごとの満足度調査は未実施

家族や友人・知人にどの程度おすすめしようと思うか
(1～10段階評価、最高値は10)

	%	回答数
10	23%	7
9	26%	8
8	19%	6
7	13%	4
6	13%	4
5	6%	2
4	0%	0
3	0%	0
2	0%	0
1	0%	0
計	100%	31

当公園に対し、どの程度満足しましたか
(1～5段階評価、最高値は5)

	%	回答数
5	55%	6
4	27%	3
3	18%	2
2	0%	0
1	0%	0
計	100%	11

緑の基本計画 市民アンケート概要(公園・生駒山関係抜粋)

(1) 大人向けアンケート (16歳以上)

対象：市内在住者3,000人

期間：令和6年12月26日～令和7年1月31日

回収数：1,062票（回答率 約35%）

設問	回答	
生駒市の花や緑として、思い浮かべるもの	1 「生駒山系の緑と稜線」 71.3% ← どの年代においても突出して多い 2 「竜田川、富雄川などの川辺や花の緑」 25.0% 3 「宝山寺・往馬大社など寺社の森」 24.9% 4 「公園の花や緑」 22.5% ← 30代が他の年齢層と比較してやや高い	
普段、花や緑の存在を感じたり、触れたりする場所	1 「自宅（庭や植木など）」 56% 2 「生駒山や矢田丘陵の樹林」 34.4% ← 10代、20代においては自宅よりも割合が高い 3 「公園の花や緑」 34.6% ← 30代が他の年齢層と比較してやや高い	
1番よく利用する大きな公園	1 生駒山麓公園 50% 2 イモ山公園 14% 3 生駒市総合公園 8%	※「大きな公園」とするもの 生駒山麓公園、生駒市総合公園、イモ山公園 滝寺公園、むかいやま公園、鹿ノ台中央公園 大瀬ふれあい公園
大きな公園に期待すること	1 「くつろいで過ごせる環境」 42.9% 2 「樹木や草花、風景を鑑賞できること」 23.1% 3 「子どものボール遊びなど自由な遊び方ができること」 22.7% 5 「遊具が充実しており、安全で遊びやすいこと」 16.7% ← 30代が突出して多い	
大きな公園の利用目的	1 「自然や景観を楽しむ」 44.0% 2 「散歩やジョギングなどの健康づくり」 32.8% 3 「遊具を使った遊び」 20.0% 5 「休憩」 17.8% ← 「くつろいで過ごせる環境」が期待されているが、利用実態は異なる	

緑の基本計画 市民アンケート概要(公園・生駒山関係抜粋)

●花や緑に関する自由意見①

設問	回答
みどりの保全に対する意見	<p>□ 小さい頃に参加した生駒山麓公園での自然体験はとても楽しく、記憶に残っているので、今の子どもたちにもそういった機会がたくさんあればいいと思います。 (10代・女性)</p> <p>□ 噴水があったり、大型トランポリンがあったりと、他市町村の公園の方が充実しているところが多く、生駒市の公園整備はもう少し頑張ってほしい。プールも、レジャーでいけるプールはほぼないし、生駒山麓公園も遊具の老朽化は否めない。 例えば生駒山麓公園の再整備と共に、生駒警察署の跡地に、子どもが思いっきり遊べるような公園を作ってほしい。 (30代・女性)</p> <p>□ 公園の遊具のバリエーションが欲しい。水辺の遊びができるビオトープや噴水が欲しい。 猪名川町立ふるさと館やグラングリーン大阪などを参考にしてほしい。 (40歳代・男性)</p> <p>□ 生駒市は小さな公園は所々に点々としているが、子供とキャッチボールできるような大きな公園がない。しかも禁止の看板もないで子供とキャッチボールしたら、付近住民から苦情を言われる。子供達が思い切って球技ができる大きな公園が必要だと思う。 (40歳代・男性)</p> <p>□ 魅力のある公園、生駒市民、他府県の来客が集う場として、生駒山と公園が一体化したような公園を望みます。生駒駅に隣接する大きな公園があれば良いと考えます。 (40歳代・男性)</p> <p>□ 市民が自由に使える広大な場所を作ってもらいたい。 ランニングができる場所。駐車場は市民は無料。(40歳代・男性)</p> <p>□ 生駒山麓公園の充実した設備とイベント。 (70歳代・男性)</p>

緑の基本計画 市民アンケート概要(公園・生駒山関係抜粋)

●花や緑に関する自由意見②

設問	回答
みどりの維持管理に関する意見	<p><input checked="" type="checkbox"/> 生駒山麓公園の梅の木、八重桜が少ない。勢いがない(少ししか咲かない)。 (80歳以上、男性)</p>
みどりの活用に関する意見	<p><input checked="" type="checkbox"/> 鹿ノ台でのイベントには積極的に参加しているが、生駒山麓公園などになると子どもを連れて行くのが大変だし、混雑していて十分に楽しめないと聞き、行くことがない。 (30歳代・女性)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 生駒山は色付きを見て季節を感じたり、登る事で健康づくりができます。生駒駅から数分で自然豊かな遊歩道に入る環境は、生駒市の大きな魅力の1つだと思いますが、あまり知られていないように思いますので、もう少しPRしても良いと思います。 (40歳代・男性)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 生駒山麓公園で花を多くしたり、紅葉を増やしてフラワーフェスティバルや花見、紅葉を見るなどのイベントを増やしてほしいと思う。 (50歳代・女性)</p>
協創によるみどりの取組に関する意見	<p><input checked="" type="checkbox"/> ずっと昔、生駒山麓公園ができたときに桜の木の記念植樹に親子で参加したことがあります。子どもながらにとても印象深い良い思い出です。自分自身も親となった今、子ども達と生駒山麓公園に行ったときにその話をして、桜の木を見に行ったりしています。子ども達にもそのような機会があると、自然を大切にしようという心が芽生えるいいきっかけになると思うので、ぜひそのようなイベントを開催してほしいです。 (40歳代・女性)</p>

緑の基本計画 市民アンケート概要(公園・生駒エリア関係抜粋)

(2) こども向けアンケート（小中学生）

対象：生駒市立小中学校に在籍する全児童（6,337人）、全生徒（2,970人）

期間：令和6年12月9日（月）～令和6年12月23日（月）

回収数：高学年（小4以上） 1,927票

低学年（小3以下） 1,512票 計3,439票（回答率 約37%）

設問	回答	
	高学年	低学年
生駒市で好きな緑	1 「生駒山の緑」 70.2% 2 「公園の花や緑」 26.6%	1 「いこま山のみどり」 56.9% 2 「こうえんの花やみどり」 27.3%
森や山、川などの自然の中でやってみたいこと	1 「バーベキューやキャンプ」 62.4% 2 「アスレチックなどの遊び」 61.4%	1 「バーベキューやキャンプ」 58.7% 2 「アスレチックなどの遊び」 55.8%
公園でやってみたいこと	1 「おまつりやイベント」 53.4% 2 「水遊び」 37.1%	1 「おまつりやイベント」 49.3% 2 「ゆうぐあそび」 44.7%

結果概要

- こどもから大人まで、生駒市を象徴する緑として「**生駒山**」を認識している
- 身近な緑として、「**公園の花や緑**」をあげる人も比較的多い（特に30代の割合が高い）
- 公園に期待する機能としては、大人は「**くつろげる空間**」の割合が高い
- また、30代、小学校低学年で「**遊具遊び**」の割合が高くなっている
- 自然の中でやってみたいこととして、こどもは「**バーベキュー**」、「**アスレチック**」の割合が高い

商工観光ビジョン 市民アンケート概要

対象：市内在住者（うち、アンケート票 1,000件送付）

期間：令和 4 年 11 月 1 日～12 月 12 日

調査方法：①アンケート票送付 ②webアンケート（全市民対象）

回収状況：アンケート票 有効回収数 242件（有効回答率 24%）

webアンケート 回答数 161件

設問	回答	答
生駒市の主な観光地への観光客が多くなることについて (宝山寺及びその参道、生駒山、くろんど池や高山竹林園等)	<ol style="list-style-type: none">とても良いと思う 43.2%まあまあ良いと思う 36.2%どちらともいえない 14.1%あまり良くないと思う 3.7%良くないと思う 2.5%	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 79.4%が肯定的な意見✓ 地域経済の活性化や利便性の向上に期待✓ 一方、生活環境の悪化や交通渋滞などの日常生活への影響が心配されている
市外の人に知ってほしい生駒市の観光資源（魅力）	<ol style="list-style-type: none">生駒山 90件 I. 生駒山上遊園地 28件 II. 宝山寺やその参道 25件 III. 自然・アウトドア 20件 IV. 夜景・眺望 12件生駒市全体 62件 I. 自然 37件	<p>意見抜粋</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 生駒山のハイキングコースや自然✓ 気軽に行ける夜景スポットとしての生駒山✓ 山麓公園のアスレチック✓ 自然のなかでのイベント
より多くの人に来てもらうために必要だと思うもの	<ol style="list-style-type: none">交通環境・駐車場 23件商業施設 22件子育て世代向けの整備 17件アウトドア 13件生駒山周辺の拠点整備 12件	<p>意見抜粋</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 小さいこどもも遊べる遊具施設✓ 家族連れが楽しめる自然体験型の施設✓ 自然を利用した遊び場
生駒市の魅力・個性	<ol style="list-style-type: none">自然環境の良さ 63件名所・特産品 10件	<p>意見抜粋</p> <ul style="list-style-type: none">✓ シンボルである生駒山とその自然を魅力として認識

02

現状と課題等

現状の問題点と検討の視点(案) ①

山麓公園の設置目的（指定管理者募集要項やふれあいセンター条例等）と現状の施設や利用の現状から見えてくる問題点、それらを踏まえた上で、これから姿に向けて、懇話会でご意見をいただきたい視点を整理すると次のようになる

設置目的	現状の問題点	検討の視点
公共の福祉並びに健康の増進を図ること	<ul style="list-style-type: none">市外利用者が半数程度となっている利用形態が施設利用に限定されている	<ul style="list-style-type: none">市民利用の上で、関係・交流人口の増大はどうあるべきか生駒山ブランドの推進の観点から、広域的な利用者をどう受け入れていくか
市街地に隣接する場所で、身近に親しみ、利用できる自然とのふれあいの場の提供	<ul style="list-style-type: none">自家用車によるアクセスは有料道路を必ず利用するようになっており、市街地との近接性が活かされていない有料道路の利用料は市負担となっているバスの本数が少なく、利便性が低い	<ul style="list-style-type: none">自家用車以外のアクセス手段の充実山上遊園地、ケーブルカーとの周遊のあり方生駒駅・東大阪側からのハイキングルートの充実
野外レクリエーションの機会を創出し、自然愛護への意識向上を図ること	<ul style="list-style-type: none">公園遊具など、施設全体の老朽化が進んでいる運動施設に関してはテニスコートのみハイカー等の利用はあるが、通過点や入浴に利用され、公園内での活動が少ない枯損木など森林環境の質の低下	<ul style="list-style-type: none">これから利用者像を睨み、自然を活かした導入機能やそれに必要な施設はどうあるべきか既存施設の中で、これからも欠かせないものは何か
管理運営、施設利用を促進し、管理コストの縮減を図り経営の効率化と収支の改善	<ul style="list-style-type: none">利用層が固定化老朽化による修繕コストの上昇入浴利用は減免対象の高齢者が多く、収益に貢献していない光熱水費の上昇	<ul style="list-style-type: none">市にとっての管理コストの縮減と新しい利用を両立させるために、民間事業者等との連携や役割分担はどうあるべきか

現状の問題点と検討の視点(案) ②

■ふれあいセンター条例 目的「市民の学習、文化活動、レクリエーション及び保養等の場を提供し、次に掲げる事業を行う」

設置目的	現状の問題点	検討の視点
市民相互のふれあいの促進及び市民の健康の増進に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の入浴利用や団体利用に限定されており、交流機会の提供が少ない 施設利用が主となっており、健康増進目的では利用されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 市民交流の機会創出のために、交流スペース等はどうあるべきか 公園内の施設として健康増進をどう促すべきか
生涯学習の振興に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 設置時、宿泊機能は生涯学習部局が所管していた関係で規定された 現在は公園部局所管となり、生涯学習機能での事業実施は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 公園における生涯学習機能をどう捉え直すべきか
高齢者の自立と生きがいの創造に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 設置時、浴場は高齢施策部局が所管しており、高齢施策として運営していた 浴場では高齢者の減免措置を実施しているが、他施設における高齢者向けの機能、サービスは弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 浴場以外の高齢者向けサービスの必要性の精査し、浴場の料金改定も含めた公園全体での導入機能の検討
障がい者の自立と社会参加の促進に関すること	<ul style="list-style-type: none"> レストラン運営、花壇等管理で障がい者が就労しており、自立支援の場となっている 就労施設が研修施設内にあるため、動線や設備が不十分との指摘もある サービス面の充実と、障がい者の就労施設という性質がうまく両立していない 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の就労施設の配置の再検討やより望ましい就労の姿はどうあるべきか
青少年の健全育成に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校の合宿、野外活動のニーズはある 指定管理者は、市外スポーツ団体、大学、一般団体、学習塾等の誘致に力を入れており、これらの利用は増加傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊・研修のターゲット層の整理と、それに対応するための施設のあり方 平日の団体利用と休日の一般利用を両立させる施設のあり方（可変性のある内装等）

※ふれあいセンター設置時、公園部局（研修施設・レストラン）、生涯学習部局（宿泊機能）、高齢施策部局（浴場）の3部局で共管。

当時の運営は、（財）生駒市ふれあい振興財団。

【検討の視点】に加えたい新たな要素

生駒山ブランド

- 生駒山麓公園だけでの発展ではなく、生駒山全体の広域的な魅力創造
(不足を補いあうような施設配置、連携の構築)
- 30年を経過した生駒山麓公園の新たな価値
(生駒山という地理的特性を踏まえた公園づくり)



山麓公園で充実が求められていること

① 観光資源の魅力向上

- アンテナショップ・案内所の設置・宿泊施設誘致・飲食の充実
- グルメ・お土産品開発・体験型レジャーコンテンツの開発
- 冬季のアクティビティの開発

② 観光動線の整備（観光用シャトルバス、周遊ルート）

③ 地域連携の強化（地元小中学校の登山学習等）

03

今後の再整備と管理運営の方針案(基本構想 骨子案)

再整備に向けた基本コンセプト(案)

生駒山で楽しさと健康がめぐる“交流の森”

生駒山ブランド の推進 広域交流・観光

- 新たなアクティビティの導入
- 宿泊機能の拡充
- ビジターセンター
- 観光資源の魅力向上
- 生駒山の四季を感じられるコンテンツ
- 飲食の充実
- 周辺エリアとの連携強化・アクセス改善

健康・ウェルネス

- ハイカー・ランナー向けの活動拠点
- 滞在・温浴施設等の充実
- 既存園路の利便性の向上

社会福祉

- 障がい者就労支援
- ユニバーサルデザイン

体験・学び

- 家族、大人、団体等の多様な人向けの体験メニューや場所の充実
- 子育て世代向けのエリア

DX（デジタル化）公園全体の利便性向上、運営効率化

04

今後のスケジュール等

全体事業スケジュール(案)

	令和7年 (2025)										令和8年 (2026)		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月					
(1) 計画準備	●												
(2) 現地踏査	●												
(3) 市民・利用者ニーズ調査													
3-1)市民アンケート調査					●	●	●	●					
3-2)公園利用者ニーズ調査			●	●	●								
3-3)その他ニーズ調査 (指定管理者・関係者、市外)				●	●	●	●	●					
(4) 基本構想の策定 (方向性)													
4-1)公園施設のあり方整理					●	●	●	●					
4-2)想定事業スキームの整理									●	●	●		
4-3)基本構想策定											●	●	
4-4)懇話会の開催			①8/1			②10/14		③11/18		④1/13			
(5) 民間事業者の意向調査		●											
(6) 施設再整備事業素案の作成													
(7) 概略設計													

